

千葉県は日本の縮図

1 はじめに

「自治研ちば」の読者の皆さんに勝浦市猿田市長のインタビュー記事をより理解を深めていただくために、千葉県の人口がどのように推移しているのか、人口動態等がどうなっているかについて、レポートを掲載します。

以下の内容は、2015年9月に開催された首都圏人口減少研究会（東京自治研究センター主催）において、千葉県自治研究センターが千葉県の人口の推移、人口動態等について報告したものをとりまとめたものです。

2 総人口は一貫した増加から、横ばいへ

図表1に千葉県の総人口と1980年を100としたときの比率を示しています。千葉県の総人口は1920年以降、1945年前後を除いて一貫して増加しています。1955年まではゆるやかに増加していますが、1960年から1980年にかけて、人口は倍増し

図表1 総人口の推移と比率（1980年=100）

年	千葉県総人口 (人)	比率 (1980年=100)
1920	1,336,155	28.2
1930	1,470,121	31.0
1940	1,588,425	33.5
1947	2,112,917	44.6
1950	2,139,037	45.2
1955	2,205,060	46.6
1960	2,306,010	48.7
1965	2,701,770	57.1
1970	3,366,624	71.1
1975	4,149,147	87.6
1980	4,735,424	100.0
1985	5,148,163	108.7
1990	5,555,429	117.3
1995	5,797,782	122.4
2000	5,926,285	125.1
2005	6,056,462	127.9
2010	6,216,289	131.3

出所：千葉県HP「都道府県別人口推移（10月1日現在）」（<https://www.pref.chiba.lg.jp/>）2015年10月5日アクセスより作成

ています。戦後の経済成長に支えられ、京葉工業地帯等の造成・開発が進んだことや千葉県北西部が東京のベッドタウン化したことが人口急増の背景となっています。

1980年以降の人口の伸びは、徐々にゆるやかになってきており、2010年以降はほぼ横ばい状態となっています。また、国立社会保障人口問題研究所の将来予測によれば、千葉県においても少子高齢化の一層の進展にともなって、今後、総人口の急激な減少が見込まれています。

以上みてきたとおり、千葉県の総人口は一貫して増加してきました。しかし、市町村別に細分化して眺めてみると、勝浦市の猿田市長が指摘した「千葉県は日本の縮図」という過疎と過密が共存する千葉県の姿がみえてきます。

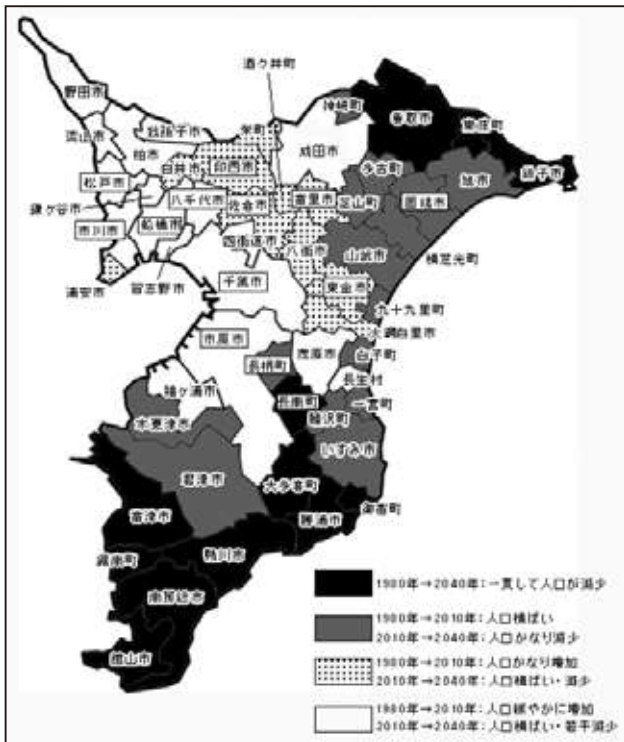
3 人口の過密と過疎が同居する千葉県

図表2には、千葉県の市町村別の人口動向を示してあります。1980年から2010年までは、5年ごとに実施された国勢調査に基づく人口を、また、2015年から2040年までは、国立社会保障人口問題研究所の予測人口（中位推計）を使って、千葉県内の市町村別の人口動向を4つに区分けしてあります。

黒塗りの部分は、1980年から2040年にかけて、人口が一貫して減少し続けている（し続けるだろう）地域で、勝浦市を含む県南部と県北東部に集まっています。グレーの地域は、黒塗りの地域より人口減少がゆるやかで、1980年から2010年にかけては人口はほぼ横ばいですが、2010年から2040年にかけては人口がかなり減少することが予測されています。

黒塗り、グレーの地域は、いわゆる過疎が進行している地域ともいえますが、いずれも東京から離れた県南部と県東部に集まっています。

図表2 市町村別の人口動向



ホワイトの地域は、1980年から2010年にかけて、人口はゆるやかに増加しましたが、2010年から2040年にかけて、横ばい若しくは若干減少が見込まれています。また、ドット柄の地域は、1980年から2010年にかけて、人口がかなり増加しましたが、2010年から2040年にかけて、横ばい若しくは減少が見込まれている地域です。千葉県の人口は、1960年代の高度経済成長期に急増しましたが、こ

図表3 人口密度の上位15市

自治体名	人口	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
1 浦安市	164,877	17.30	9530.5
2 市川市	473,919	57.49	8243.5
3 松戸市	484,457	61.33	7899.2
4 習志野市	164,530	20.99	7838.5
5 船橋市	609,040	85.64	7111.6
6 鎌ヶ谷市	107,853	21.11	5109.1
7 流山市	163,984	35.28	4648.1
8 八千代市	189,781	51.27	3701.6
9 千葉市	961,749	272.08	3534.8
10 柏市	404,012	114.90	3516.2
11 我孫子市	134,017	43.19	3103.0
12 四街道市	86,726	34.70	2499.3
13 白井市	60,345	35.41	1704.2
14 佐倉市	172,183	103.59	1662.2
15 野田市	155,491	103.54	1501.7
千葉県	6,216,289	5156.70	1205.5

出所：平成22年国勢調査人口等基本集計（総務省統計局）

これはこのホワイトの地域から始まり、その後の地価高騰等によって、人口はドット柄の地域へ拡散していったと考えられます。いずれにしても、ホワイト及びドット柄は東京に近い人口過密の地域といえます。

図表3には、千葉県の人口密度（1205.5人/km²）よりも大きい15市のデータを示しています（残る39市町村はすべて千葉県の人口密度を下回っています）。これからわかるように、ホワイト地域の都市が12市、グレー地域の3市が含まれており、すべて東京に近い千葉市以西に人口密度の高い、過密な都市が集まっています。この15市が占める

面積は県全体の面積の約20%にあたりますが、その地域に県全体の人口の約70%の人が住んでいます。

4 2014年人口は2年ぶりに増加

図表4には、2014年の千葉県内の市町村別の人口、自然増減数及び社会増減数を人口増減数の大きい順に載せてあります。

最下段には千葉県の2014年のデータがあります。千葉県の総人口は約619万人で、自然増減は6,381人のマイナス（死亡数が出生数より多い）ですが、社会増減が12,633人のプラス（転入が転出を上回る）のため、人口増減は6,252人の増加となっています。

千葉県のホームページによれば、「近年の人口増減の推移を増減率でみると、昭和42年から49年までは4%以上の増加率であった。昭和57年からは1%台で推移、平成5年には1%を割り、平成23年に初めてマイナスに転じて以降、平成25年（-0.02%）までマイナスが続いたが、平成26年は増加に転じた」とあります。最近の千葉県の人口動向は、微減・微増といった横ばい状態となっています。

町村別の人口増減率をみると、流山市の人口増加率16.73%が最も高く、習志野市、市川市、船橋市、木更津市と続いています。人口減少率が最も高いのは長南町で、芝山町、鋸南町、大多喜町、

図表4 市町村別人口、自然増減数、社会増減数等 (2014年)

自治体名	10/1 現在の人口	自然増減数 (A)	社会増減数 (B)	人口増減数 (A)+(B)	人口増減率 (%)
流山市	171,701	441	2,432	2,873	16.73
習志野市	167,796	227	1,106	1,333	7.94
市川市	472,338	1,073	2,536	3,609	7.64
船橋市	619,214	880	2,557	3,437	5.55
木更津市	131,979	△ 210	929	719	5.45
柏市	408,198	284	1,923	2,207	5.41
印西市	91,755	83	297	380	4.14
八千代市	190,603	57	727	784	4.11
白井市	61,582	25	218	243	3.95
浦安市	163,167	567	△ 21	546	3.34
松戸市	481,346	△ 10	1,424	1,414	2.94
千葉市	965,679	△ 407	2,732	2,325	2.41
袖ヶ浦市	60,883	△ 106	252	146	2.40
四街道市	89,185	△ 35	168	133	1.49
成田市	130,908	222	△ 29	193	1.48
睦沢町	7,130	△ 58	62	4	0.57
佐倉市	171,816	△ 399	348	△ 51	△ 0.29
富里市	49,955	△ 46	0	△ 46	△ 0.92
鎌ヶ谷市	108,660	△ 36	△ 97	△ 133	△ 1.22
一宮町	11,892	△ 77	52	△ 25	△ 2.10
市原市	276,462	△ 370	△ 333	△ 703	△ 2.54
大網白里市	49,522	△ 227	72	△ 155	△ 3.13
野田市	154,445	△ 457	△ 66	△ 523	△ 3.39
我孫子市	131,377	△ 261	△ 189	△ 450	△ 3.43
酒々井町	21,176	△ 49	△ 57	△ 106	△ 5.00
君津市	86,946	△ 291	△ 152	△ 443	△ 5.10
長生村	14,441	△ 88	△ 1	△ 89	△ 6.16
東金市	61,145	△ 162	△ 233	△ 395	△ 6.46
茂原市	90,235	△ 409	△ 214	△ 623	△ 6.90
旭市	67,258	△ 256	△ 251	△ 507	△ 7.54
白子町	11,458	△ 108	9	△ 99	△ 8.64
館山市	47,596	△ 369	△ 53	△ 422	△ 8.86
横芝光町	23,757	△ 224	△ 40	△ 264	△ 11.11
富津市	46,066	△ 410	△ 130	△ 540	△ 11.72
八街市	70,566	△ 290	△ 553	△ 843	△ 11.95
匝瑳市	38,121	△ 319	△ 153	△ 472	△ 12.38
鴨川市	34,263	△ 353	△ 78	△ 431	△ 12.58
いすみ市	38,942	△ 439	△ 74	△ 513	△ 13.17
栄町	21,101	△ 142	△ 136	△ 278	△ 13.18
東庄町	14,436	△ 136	△ 58	△ 194	△ 13.44
香取市	78,570	△ 632	△ 428	△ 1,060	△ 13.49
多古町	14,997	△ 141	△ 68	△ 209	△ 13.93
御宿町	7,510	△ 140	24	△ 116	△ 15.44
南房総市	39,623	△ 520	△ 122	△ 642	△ 16.20
山武市	52,945	△ 432	△ 447	△ 879	△ 16.60
長柄町	7,510	△ 73	△ 58	△ 131	△ 17.44
九十九里町	16,607	△ 137	△ 155	△ 292	△ 17.58
銚子市	65,398	△ 663	△ 563	△ 1,226	△ 18.75
神崎町	6,218	△ 54	△ 64	△ 118	△ 18.97
勝浦市	19,342	△ 252	△ 119	△ 371	△ 19.18
大多喜町	9,954	△ 130	△ 84	△ 214	△ 21.50
鋸南町	8,271	△ 129	△ 52	△ 181	△ 21.89
芝山町	7,467	△ 81	△ 85	△ 166	△ 22.23
長南町	8,272	△ 112	△ 72	△ 184	△ 22.24
千葉県	6,197,784	△ 6,381	12,633	6,252	1.01

(備考) 大網白里町は平成25年1月1日に単独市制を施行

出所：千葉県毎月常住人口調査月報

勝浦市の順となっています。また、千葉県内の54市町村のうち、15市1町の人口増減がプラスとなっています。この16市町は、木更津市と睦沢町を除いて、図表3のホワイト・ドット柄の地域となっています。

木更津市の自然増減は210人のマイナスですが、社会増減が929人のプラスとなっています。これは、1997年にアクアラインが開通したことともなう県外からの転入超過が大きな要因と考えられます。

5 県外と外国人の転入超過の影響大

自然増減がプラスの9都市を図表4の中で網掛けにしてあります。それ以外の45市町村の自然増減はすべてマイナスです。千葉県全体の自然増減率をみると、最近までわずかながらプラスを維持してきましたが、2011年に初めてマイナスに転じ、2014年も-0.10%となっています。

社会増減については、19市町がプラスとなっています。プラスの多くは、県北西部の都市がほとんどですが、千葉県の「過疎地域」(図表3の黒塗り・グレーの地域)である睦沢町、白子町、御宿町がプラスとなっています。

紙面の都合で、詳細なデータを掲載できませんが、御宿町を例にとりますと、2014年の社会増減が24人のプラスとなっています。この転入超過の状況を細かくみていくと、東京都からの転入超過が23人、神奈川県からの転入超過が7人となっている等、関東近県から県南東部に移り住んでくる人数がかなり影響していると思われます。

もうひとつは、千葉県全体の社会増減は12,633人のプラスとなっていますが、この中には外国人8,990人の転入超過が

含まれています。外国人の転入率が高いのは、旭市、横芝光町、銚子市、芝山町等ですが、外国人が千葉県全域の第一次産業をはじめとした様々な産業に携わっていることを示唆しています。

6 高齢化率が高い県南東部

図表5に市町村別の高齢化率（2010年）を示しました。県西部では、高齢化率が15%を下回っているのは浦安市の11.7%のみで、浦安市以外は15%～25%となっています。県東部は、旭市が24.1%で、その他の市町は25%～30%の地域となっています。

県南東部は30%を超える高齢化率の市町が集まっていますが、最も高齢化率が高いのは御宿町の40.6%です。

7 合計特殊出生率 国平均を7市が上回る

図表6に市町村別の合計特殊出生率（H26年）を示しました。合計特殊出生率が最も高いのは、館山市の1.53で、君津市1.52、流山市1.47、四街道市1.46、南房総市1.44、木更津市1.43が続いており、以上の7市が国の平均1.42を上回っています（千葉県の平均は1.32）。

出生率には、一見して地域的な偏りや特徴が見られず、出生率の大小には様々な要因が複雑に絡んでいることを示唆しているものと思われます。

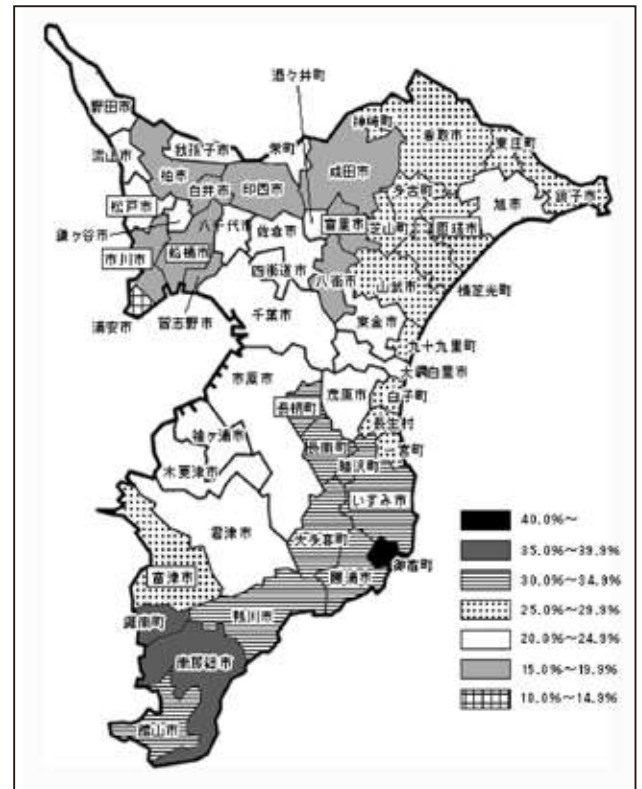
8 まとめ

千葉県の総人口の推移、市町村別の人口動向、人口動態、高齢化率、合計特殊出生率等の概要をざっと眺めてきました。

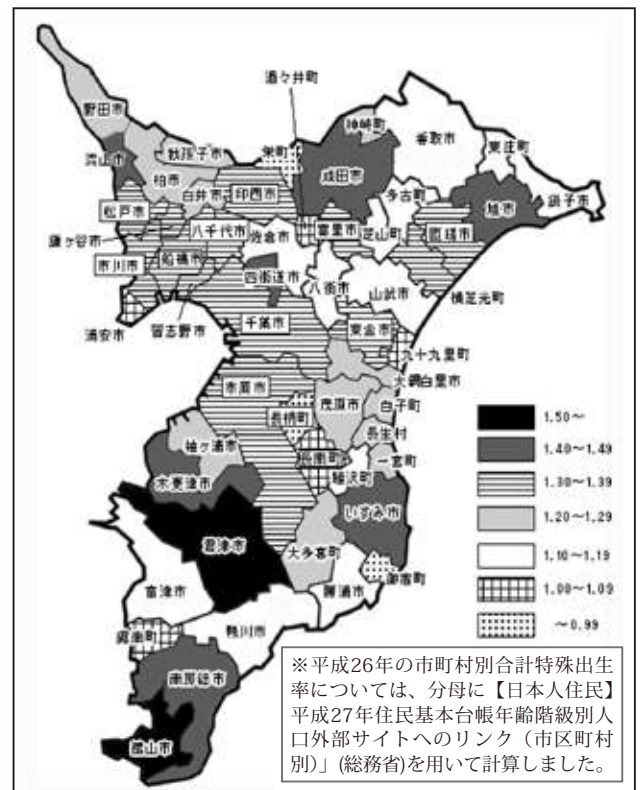
高度経済成長期から急激に人口増加し、東京に近い都市化した県西部と、それとは対極にある一貫して人口が減少し続けてきた高齢化率の高い県東部・南部をかかえる千葉県は、まさに日本の縮図といえると思います。

人材豊富な都市化した地域と後継者が不足する自然豊かな地域。お互いの地域のたらないところ

図表5 市町村別の高齢化率（2010年）



図表6 市町村別の合計特殊出生率（H26年）



出所：千葉県HP「合計特殊出生率の図」
<https://www.pref.chiba.lg.jp/> 2015年9月16日アクセスをもとに作成

を補いつつ、連携・調和をはかっていくことが、今後の千葉県の発展のカギを握っているといえます。